

# 明治村 だより

1998 Winter



冬号  
Vol.14

## 名鉄沿線ご案内



### 目次

聖ザビエル天主堂聖画修復報告	山領まり・宮田順一	2
明治村の蔵書 其の二		10
明治村の仕事 一		12
館蔵資料紹介(二)		13
帝国ホテルの兵士像		13
秋の明治村		14

表紙写真「子供の遊び」明治二十年永瀬画より

### 『明治村だより』

第十五号(平成十一年春)発行のお知らせ

発行時期 平成十一年三月(予定)

申込方法 『明治村だより』第十五号ご希望の旨、ご住所・お名前を明記の上、送料一四〇円分の切手とともに封書にてお申し込み下さい。

平成十年十二月十六日発行  
『明治村だより』第十四号(平成十年冬)

発行 博物館明治村

愛知県犬山市内山一帯地

電話(〇五六八)六七〇三二四 千四八四一〇〇〇

ホームページ <http://www.meietsu.co.jp/meiji-vil/>

製作 大日本印刷株式会社









# 「明治村の蔵書について」 其の二



図1

前回に引き続き、当館に一括寄贈された蔵書について、今回は約二万冊の成瀬正勝文庫についてご紹介したいと思います。

成瀬正勝氏は周知の通り、近代文学の碩学であり、当財団法人明治村の設立当初からの評議員であった。成瀬氏は愛知県犬山市にある国宝犬山城の旧城主であり、この地に明治村が開館したという浅からぬ縁があったわけである。

成瀬氏（明治三十九年～昭和四十八年）は、東京生まれ。昭和十一年に東京帝国大学文学部国文学科卒業。在学中より雅川 混のペンネームで評論家としても活躍された。大学卒業後は日本大学予科の教授を経て母校の東京大学で永く教鞭を執った。昭和四十一年に定年退官のち、成蹊大学文学部の教授となるが、研究半ばにして病を得、昭和四十八年に六十七歳で逝去された。専門は明治文学でとりわけ森鷗外の研究に造詣が深い。

また愛書家としても夙に有名で膨大な蔵書を持っていたが、東京大空襲で自宅もろとも焼失してしまった。従って当館に寄贈された蔵書は、戦

後新たに収集し直したものであるという。昭和五十一年、成瀬氏の蔵書散逸を惜しまれたご遺族のご厚意により、当館へ寄贈された次第である。

当時の初代館長谷口吉郎は、このご厚意に報いるため早速蔵書目録を作成することを決定した。成瀬氏の門下生の一人で、名古屋大学の助川徳是教授のご尽力で図書整理に着手、昭和五十四年に目録は完成した。（図1）

蔵書のうち図書が約二万二千冊、雑誌が約八千冊である。専門の文学関係ばかりでなく宗教・哲学なども含み、広範に亘って収集されていることがわかる。近代文学の分野では、福地桜痴・坪内逍遙ら開化期の作家、尾崎紅葉・泉鏡花（図2）・小栗風葉らの硯友社同人、田山花袋・徳田秋声ら自然主義の文学者、武者小路実篤ら白樺派同人、永井荷風ら耽美派の文学者などの初版本が多数を占める。永井荷風などは大正時代の春陽堂発行の全集から戦後発行の二種類の全集まで揃えている。またいわゆる書き込みや献呈署名入りと

いう特殊な本も何冊か瞥見できる。

雑誌については約二百種類あり、文学・思想・社会など幅広く収集されている。単なる参考の為だけならともかく雑誌は何といってもある程度揃っていることに価値がある。一般的に言って雑誌の揃を一括で入手できる機会はあまり多くはない。従って勢いメモを片手に端本を丹念に探しまわることになるわけで、その労力たるや並大抵のことではない。成瀬氏の収集方法がどのようであったかは知るべくもないが、この文庫に収められている雑誌は、その量・質ともにかなりのレベルであるといえよう。全号揃っている雑誌は、『明六雑誌』、『女性』、『都の花』（図3）である。

『明六雑誌』は、全四十三冊。明治七年から八年にかけて発行された明六社の機関誌で、明治初期の総合啓蒙雑誌である。内容は、政治・経済・哲学・宗教・文学・教育と多岐にわたっている。

『女性』は、全七十二冊。大正十一年から昭和三年にかけてプラトン社から発行された婦人雑誌である。プラトン社は、大阪のクラブ化粧品本舗中山太陽堂が創めた出版社であった。内容は婦人の啓蒙的要素が強かったが、次第に文芸的要素を深め、北原白秋・永井荷風・谷崎潤一郎らが連載をしている。また新劇の論評なども多くこれが一つの特色ともなっている。

『都の花』は、全百九冊。明治二十一年から二十六年にかけて金港堂から出版された文芸雑誌である。文芸雑誌としては草分け的存在で、山田美

妙が中心となって編集し、自作の小説を多く載せた。文学改良主義が根底にあり、言文一致の文体による表現が多い。また挿し絵も多く、小林清親・武田桂舟・松本楓湖らが筆をふるった。他に『白樺』が創刊号を欠くがほぼ揃っており、『文芸倶楽部』は三分の一程揃っている。また復刻本は多数あり、研究には事欠かない。

目録を刊行してから、一部の研究者にはこの文庫の存在が知られるようになり、閲覧申込みもその都度引き受けていたのであるが、当方の事情で

正式には公開というかたちを取れなかったのは、寄贈者に対して申し訳ないことと思う。一般図書館のように開架式というわけにはいかないが、とりあえず閉架式の形で公開準備をしている最中である。

遠藤照子（当館学芸員）



図2 泉鏡花『相合傘』 大正3年



図3 『都の花』

# 明治村の仕事 1



明治村の仕事と一口に言いますが、その内容は多岐に亘っています。

明治村をよりよく知っていただくために、今回から幾つかに分かれているそれぞれの仕事をシリーズとして順次紹介したいと思います。

当館は建築を主とする野外博物館ですので、まず最初に建築技師として特色ある建築の修理指導を担当しています。長谷川良夫氏に登場願いました。

— 建築の仕事に就かれたのはどういうきっかけでしたか。

高校時代、良い先生に巡りあえたお陰で古建築に興味を持ちはじめ、日本建築史の勉強を始めました。それで大学を出てから文部省に入り、文化財保存関係の仕事に就いたわけです。

— 明治村では具体的にどのような仕事をしていますか。

私の場合は明治村にある重要文化財指定建造物の修理の仕事が主ですね。当初、明治村ではこの仕事が遅れていました。修理工事について長期計画を立てて年次計画に沿って立案し仕事を進める訳



— 現在手掛けている仕事は何ですか。

重要文化財聖ヨハネ教会堂の修理工事です。具体的にどういった内容かといいますと、現在教会正面の大窓部分パトリサリーの枠がスチール製に変えられていますが、今回古写真が発見されて当初の形が確認されましたので、文化庁の指導もあって元

です。この指定文化財を修理するにあたっては、文化庁に対して書類手続きが必要となります。この一連の手続きを一手に引き受けています。

— 文化財としての建造物保存のポイントはどういうことでしょうか。

実際に保存修理の仕事をするのは、いわゆる職人とよばれる大工・左官・ペンキ塗職・建具職の人々です。どれだけ良い職人を選ぶかということが仕事のよしあしを決めることになってきます。優秀な職人をおかき育成するにかかっています。そういう人々をまず大事にしなければいけません。また機会あるごとに建造物の古い痕跡を見つけて創建当時に推測することがポイントです。特に一部でも解体する時などは好機です。

の木製に戻すということをやります。また、建てられてから約三十年近く経過しているので外装のペンキ塗や塔屋の部分がかなり傷んでいます。それと雪のために傷んだ屋根部分としっかりと塗の修理も行う予定です。工期が十一月から来年七月まで約九ヶ月間にわたる大規模な修理となります。

— 木造の建造物というのはどの位の耐用年数なのですか。

通常木造建造物の耐用年数は二五年と決められています。周囲の環境条件によっても違ってきますね。

— これから文化財保存の仕事をめざす人に何かアドバイスがあれば

文化財の保存修理というのは、先人の仕事を尊重することはもちろんですが、二、三度目の修理の時にさらによく調査をすると新しい発見があり、そこにまた進歩が生まれるということが多々あります。ですからどのような建造物でも綿密な調査をしなければならぬということです。それと常に職人さんと一緒にあって建造物に触れるということが一番肝心なことだと思います。

— ありがとうございます。

新しく建造物を移築するということはもちろん大変な仕事ですが、それにもまして良い状態で永く保存するということは非常に手間のかかるものです。明治村の場合建造物あつての博物館ですから、良く整備された建造物を来村者に常に公開できるように努めてゆきたいと考えております。

現在、聖ヨハネ教会堂は、保存修理工事の中、見学はできません。何卒ご了承下さい。

## 館蔵資料紹介 ③ 帝国ホテルの兵士像

「明治村」といって思い浮かべる建物は？」と問いかけた時、「帝国ホテル」と答える人が結構多くありました。もちろん当館でも代表的展示建造物のひとつにあげています。

二十世紀建築界の巨匠、フランク・ロイド・ライトによって設計されたこのホテルは、中央玄関部分のみの移築ではありますが、今でも多くの人々を魅了し続けています。建物に近寄り、また内部に足を踏み入れ、石積や彫刻の美しさに感嘆の声をあげる人は後を絶ちません。

「幾何学模様」「抽象的造形」等、ライト独特のデザインを称する言葉があります。些かわかりにくいこれらの表現も、帝国ホテルを見た時、実際に形としてとらえることが出来ます。「幾何学的な組み合わせによって創り出される抽象的な彫刻」が建物すべてに溢れています。そして、何を表現したものか



図1 帝国ホテルの兵士像

人々が共通のイメージを持つことが難しい彫刻の中で、特異とも言えるほど具象的なものがあります。車寄の前にある池の中に立つ二体の彫像がそれです。(図1) 大谷石を幾何学的に積み重ねたその姿は、鎧を身に纏い、剣と槍を携えた兵士像と見えはしないでしょうか。宮城を守る衛士、宮殿の衛兵と言った方が良いでしょう。元々、池の両脇には迎賓室がありました。兵士像は、正面玄関とともに、「天皇の入口」とライトが記した迎賓室の入口をも警護していたのです。

帝国ホテルは、アメリカ大陸の古代文明「マヤ」を連想させるといって一般的になっています。ライト自身には、「日本には尊敬に値する伝統があり、出来る限りそれらに合った建物を建てること、私の特権であると同時に、私の義務であると感じた」という想いもあったようですが、結果として出来上がった建物は、「彼が日本で作った作品の中で最も日本的でない建物」と言われるものとなりました。ヨーロッパ建築に対抗して、新大陸アメリカの建築様式を確立させようと、長年努力していたライトは、日本を代表するホテルの設計、しかも皇居の真正面というまたとない舞台に、アメリカの文化を対比させたのです。

では、今回取り上げている彫像にも、アメリカ大陸古代文明の影響は見られるのでしょうか。

マヤ文明の舞台となった中米、現在のグアテマラの南部を流れるモタグア川岸にあった遺跡キリグワで見つかった石像が興味を惹きます。(図2) 人物



図2 キリグワの石像  
(リトルワールド撮影)

像と言っても、壁面に浮彫りされたものや柱に描かれたものが多いなかで、この像は彫像のように独立しています。側面にはマヤ文字が刻まれ、手には祭祀用具のようなものを捧げ持っているところから神人のように思えます。

宮殿を守る兵士と神殿を守る神人。ライトの「マヤ」への尽きない想いが、神人を兵士に変えて再現させたと考えられることもできるのです。公園を隔てて、皇居に向かい合う形で建てられた帝国ホテルは、そのまま、日本文化に向かい合う形で提示されたアメリカ文化のひとつの姿なのです。そして、両者の間に立つ兵士像は、ライトが日本にもたらそうとしたアメリカ文化の先頭に立ち、露払いの役割を担っていたのではないのでしょうか。

参考文献

明石信道「旧帝国ホテルの実証的研究」一九七二

谷川正巳「フランク・ロイド・ライト」一九八一

オルギヴァンナ・L・ライト

「ライトの生涯」一九八三

江上波夫監修

「世界の大道跡⑬マヤとインカ」一九九七

安江由香(当館学芸員)



# ぬくもり

## 初春



# いっぱい

## 明治村

平成10年12月5日(土)から  
平成11年1月31日(日)まで  
休村日12月31日(木)



## クリスマス

●正月遊びめぐり (無料)

1月1日～3日・9日・10日・15日

中井酒造・日赤前広場

カルタとり、羽根つき、こま回し、福笑い

●屠蘇・大福茶サービス (無料)

1月1日 9:30～

正門

先着200名

●餅つき (無料)

1月2日・3日 12:00～

無声堂前

●郷土の雑煮 (有料)

1月1日・2日・3日

中井酒造

●う年郷土玩具展

1月1日～31日

東山梨郡役所1階

兎にちなんだ郷土玩具約30点の展示



●猫の家と漱石展

期間中

森鷗外・夏目漱石住宅

12月9日の漱石忌、1月5日の生誕にちなんで、  
遺愛品や初版本を展示

●新年諸国門松・しめ縄めぐり

1月1日～10日



●初神楽

1月2日・3日 13:00～、14:00～

2回公演

呉服座

●クリスマス装飾

12月5日～25日

聖ザビエル天主堂・帝国ホテル中央玄関ほか

●ハンドベルコンサート

12月20日 13:30～、14:30～ 2回公演

師勝はなの樹幼稚園

12月23日 13:00～、14:00～ 2回公演

金城学院高等学校

聖ザビエル天主堂

●菅沼ゆづき ヴァイオリンリサイタル

12月26日 13:00～15:00

聖ザビエル天主堂

●「第九」コンサート

12月27日 13:00～13:40

聖ザビエル天主堂



\*都合により変更する場合がありますので、詳細については事前にお問い合わせ下さい。